

<別紙>

- ①活動予定「11・12 月」 ②「森の防潮堤づくり・緊急シンポジウム」チラシ
- ③「全国育樹祭各種イベント」チラシ ④国際シンポジウム冊子
- ⑤「川内村PR新聞記事・いとおしき川内村よ」

<もくじ>

★ ごあいさつ	「大事業へのご支援にお礼・川内村復興への願い」	1
★ 新聞記事	「10. 27 中東遠総合医療センター植樹祭」	3
	「10. 28 いのちを守る・希望の森づくり国際シンポジウム」	4
★ 行事案内	「11. 10 緊急シンポジウム・森の防潮堤づくり」	6
	「11. 11 全国育樹祭・県民参加型おもてなし広場」	6
	森林・林業環境機械展示実演会	6
	森で遊ぼう！学ぼう！体験しよう	6
	「12. 16 2012 メモリアル・時ノ寿の森昼食会」	6
★ 近況報告(時ノ寿ブログより)		
	9 月 19 日「日本の原風景を守る」	7
	9 月 20 日「密着取材の結果が放映」	7
	9 月 23 日「川内村植樹祭参加者の感想」	8
	9 月 29 日「病院大植樹祭が 1 カ月後に迫る」	9
	10 月 4 日「好きこそ物の上手なれ」	10
	10 月 7 日「3000 人を動かすとは」	10
	10 月 12 日「ビジョンと努力」	11
	10 月 13 日「徳川二人展で芸術の秋を」	12
	10 月 15 日「子供が学ぶ」	12
	10 月 16 日「大仕事に大切なこと」	13
	10 月 19 日「心に森をもつ」	14
	10 月 24 日「225001 本の苗木が搬入」	15
	10 月 26 日「苗木 22500 本スタンバイ」	15
	10 月 29 日「未来に向け離陸した協働の森林再生」	16

<こあいさつ>

秋晴れの下 3300 人が未来を託し 22500 本を植樹

～ チーム時ノ寿のパワーを社会に大きくアピール ～

10月27日の中東遠総合医療センター植樹祭は、参加者3000人・スタッフ300人の前代未聞の大植樹祭となりました。NPO・行政・企業が連携した素晴らしいスタッフのチームワークと役回りにより、かつ参加者の真摯な姿勢に支えられ、そして天に恵まれ、22500本の苗木が1時間で事故もなく、立派に植え終わりました。クラブ員の皆さまのご協力に心から感謝を申し上げます。

今回の植樹祭では、多くの人々が「いのち」の大切さを共感し、生命を育む地域には「豊かな森」が必要であることを実感していただけたと思います。3300人のたくさんの思いが託された「いのちの森」が、大きく豊かに育っていくため、両市民により、可愛いわが子や孫のように苗木に目を掛けていってほしいと思います。

この植樹祭を1年以上も前から企画し、当日の運営まで担当させていただいた主宰者としては、分度を超える大事業が所期の目的以上の大きな成果を上げ、無事に終了できましたことに感激しています。ご指導いただいた宮脇昭先生、多額な財政援助をいただいた日本財団、自治体をまたぐ前代未聞の協働に理解いただいた袋井市・掛川市、企業連携の先導役をしていただいた毎日新聞社など、御支援いただいた各方面の方々に感謝を申し上げるとともに、市民の先頭に立って「ふるさとの森づくり」を推進して行かなければならないと、自覚を新たにいたしました。

NPO法人時ノ寿の森クラブの会員の皆さま、しばしの御休息の後、引き続き「未来の子どもたちのための豊かな森づくり」に、物心両面からのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

10.28 いのちを守る「希望の森づくり」国際シンポジウム

川内村の皆様の「ふるさと」への熱い思いが 森づくりの意義と使命を 強くしてくれました

市の面積の半分を森林が占める掛川市の森づくりを、市民と行政の協働による全市民的活動に発展させる出発点として企画した「いのちを守る・希望の森づくり国際シンポジウム」は、10月28日400人の参加者によって盛大に開催されました。参加者の皆さまは、植物生態学者として世界に誇る横浜国立大学名誉教授宮脇昭先生をはじめ、森づくり先進国ドイツから、都市化著しい上海から来ていただいた先生たちの事例に基づく「本物の森づくり」の話しに、席を立つ人もなく最後まで聞き入っていました。

また、村の復興に向けて日夜ご多忙にもかかわらず、遠方がかつ心ばかりの私どものご招待に対して、川内村猪狩貢副村長はじめ16名の村民の皆さまがご来訪くださいましたことに、心か

ら感謝を申しあげます。十分なおもてなしも出来ませんでした。ご参加いただいた皆様が掛川市民の気持ちをお受け止め下さり、喜んでいただけたとのことを伺い、クラブ会員一同はもとより掛川市民も心から喜んでおります。

川内村におきましては、復興に向けて課題は山積だと思いますが、未来にとって最も大切なふるさとの原風景を所有される誇りを胸にし、前進していただきたいと思います。私ども時ノ寿の森クラブも、社会から見放され荒廃する広大な森林を豊かな姿に再生するため、地道な活動が続けて参ります。未来の子どもたちに豊かな自然を引き継ぐ使命を持つ、川内村と掛川市の両自治体が、これを機会にますます交流が発展していくことを、願っています。

＜新聞記事＞

掛川の医療センターで植樹祭 環境守り防災効果も

袋井市長「両市民一緒に森作りを」

掛川市で掛川、袋井両市が全国初の自治体統合病院として建設中の中東遠総合医療センター。27日、環境を保全し、防災効果もある防災環境保全林を植樹する「いのちを守る希望の森づくりプロジェクト」植樹祭（実行委主催、NPO法人・時ノ寿の森クラブ・同ブライツ・毎日新聞社共催、林野庁後援、日本財団助成）では、参加した約3300人の市民らの歓声が響いた。この日は病院敷地にシイ、タブ、カシ類を中心に広葉樹27種の苗木約2万3000本を植えた。

植樹を指導した宮脇昭・横浜国立大名誉教授が、「災害に強い本物の森を育てよう」と呼びかけた。同病院は500床で、地域の中核的医療を担う。医師不足に悩む自治体同士の統合例として注目されている。病院管理者の原田英之・袋井市長は「両市民が一緒に森を育てることに意義がある」とあいさつした。

【舟津進】

苗木を植える（左から）松井三郎・掛川市長、原田英之・袋井市長、宮脇昭・横浜国立大学名誉教授ら。掛川市の中東遠総合医療センターで。



平成 24 年 10 月 28 日 毎 日 新 聞

植樹願い込めて

広葉樹の苗木を丁寧に植える福島県川内村の猪狩貢副村長（右端）ら村民たち。左後方は中東遠総合医療センター＝掛川市で



両市民 誇れる森に

掛川・袋井の新病院記念 福島からも参加

掛川、袋井両市立病院を統合して来年五月に開院予定の「中東遠総合医療センター」（掛川市菖蒲ヶ池）で二十七日、「希望の森づくり」植樹祭が催された。福島第一原発事故で多くの住民が避難している福島県川内村など県内外から三千三百人が参加し、病棟東側の斜面約七千五百平方メートルにアカガシやスダジイなど二十七種の苗木約二万三千本を植えた。

（佐野太郎）

両市でつくる実行委りに協力している宮脇昭・横浜国立大学名誉教授（植物生態学）が指導した。

開会式で、実行委員長が「両市民がそろって植樹することに意味がある。力を合わせて

長が「両市民がそろって植樹することに意味がある。力を合わせて

植栽用の移植などを手を手に植樹地に移動し、一本ずつ丁寧に植え付け、苗木を守るわらで土を覆っていった。

川内村から駆け付けた猪狩貢副村長ら十六人も作業に汗を流した。掛川市のNPO法人「時ノ寿の森クラブ」（松浦成夫理事長）が同村の「いのちの森づくり」植樹祭に参加するなど交流している縁で、今回の呼びかけに応えたという。

猪狩副村長は「村の基幹産業は農業と林業だが、人口三千人のうち二千人が避難生活を強いられている。森の大切さは分かるので、ぜひお手伝いしたい」と思いで参加しました」と話していた。

新病院建設地で植樹祭

掛川、袋井から3300人参加

「希望の森づくり」へ汗



中東遠総合医療センター植樹祭が27日、掛川市菖蒲ヶ池の同病院建設地で行われた。掛川、袋井両市民ら合わせて3300人が参加し、常緑広葉樹を中心とした27種類2万3千本の苗を植えた。命を守る「希望の森」の一環で、宮脇昭横浜「づくり」プロジェクト 国立大名誉教授が指導

宮脇名誉教授（右から2人目）の指導で植樹を行う参加者ら。掛川市菖蒲ヶ池

命を守る「希望の森」の一環で、宮脇昭横浜前に、松井三郎掛川市長、原田英之袋井市長らに続いてタブノキ、アラカシなど木の名前を唱和した。植樹場所は新病院東側の斜面約7500平方メートル、1平方メートルあたり3本の違う品種を植える「宮脇方式」で実施した。共催団体のNPO法人時ノ寿の森クラブが交流を続けている福島県川内村からの参加者もあった。両市の統合新病院は

来年5月に開院予定。庭昇さん(66)「同市下になる。いい森に育つ家族5人で参加した大垂木」は「家族の記念で欲しい」と話した。

森林の役割考える

宮脇名誉教授ら取り組み紹介

掛川市主催の「いのちを守る希望の森づくり国際シンポジウム」が28日、市内のホテルで開かれた。市民約400人が参加し、防災林としての森林の役割や再生の意味をパネリストと一緒に考えた。会場には福島県川内村の住民が招待された。同市が津波対策として総力を挙げる「希望の森プロジェクト」の一環。パネリストは、森林生態学の権威として知られる横浜国立大の宮脇昭名誉教授



シンポジウムで講演するハノーバー大のポット教授(右)。横浜国立大の宮脇名誉教授(左)が通訳を務めた。掛川市内

授。3人が順番に講演した。宮脇名誉教授は「どんなに金と技術をつぎ込んで虫1匹、草1本さえ再生できない」と強調し、命の尊さを訴えた。その上で、生物多様性と豊かな環境を保障する森の重要性を説明。カシやナラなど災害に強い木を植える意味を解説した。ポット教授は、ヨーロッパで実践されるダム建設や森林を使った高潮対策をテーマに講演。達教授は中国都市部の再緑化への取り組みなどを紹介した。「希望の森プロジェクト」は今年6月、掛川市沿岸部で植樹祭第1弾を行った。第2弾は来年3月の予定。

平成28年10月29日 静岡新聞

<行事のご案内>

緊急シンポジウム「森の防潮堤づくり」

～ 時ノ寿の森クラブ理事長がパネラーで登壇！

掛川市で始まった「山と海をつなぐ森づくり」を紹介 ～

と き 11月10日（土）午後1時30分～午後4時30分

ところ 静岡商工会議所ホール

* 詳細は、同封のチラシをご覧ください。

全国育樹祭の各種イベント

- 県民参加型おもてなし広場
- 森林・林業環境機械展示実演会
- 森で遊ぼう！学ぼう！体験しよう！

と き 11月11日（日）午前9時～午後4時

ところ エコパ

* 詳細は、同封のチラシをご覧ください。

2012 メモリアル・時ノ寿の森昼食会」

多くの大事業にご協力いただきありがとうございました。

1年間の記録を映像で振り返り、昼食を共にしながら、互いに労をねぎらうとともに来る年の希望を語り合います。大勢の参加をお待ちしています

と き 12月16日（日）午前9時～午後3時

ところ 森の駅

内 容 大掃除、機械器具点検、1年間記録上映、昼食会

*** 参加費は無料。昼食は、クラブで用意します。参加の可否を事務**

局(松浦・23-0412)まで 11月30日までに御連絡ください。

<近況報告> (時ノ寿ホームページ・ブログより)

2012年9月19日(水)

日本の原風景を守る

福島県川内村に行ってきたことを昨日のブログに書きました。東日本大震災から1年半が経ちましたが、先日のメディア各社の被災地ドキュメントからは、被災していない者の想像力では到底理解出来ないほど、被災地のみなさんの心身は、人間にとってこれ以上ないほどの過酷な状況に置かれていると痛感させられました。



先日、川内村に入り、すぐに目に入ったものは荒れ果てた田畑と、まったく人の姿がないという景色でした。周囲に広がる里山の風景は、私たちが森林再生している静岡県掛川市の山間地よりも比べものにならないほど、川内村の山も田畑も人々が暮らしやすい「まほろば」と言ってもいいほど、素晴らしいものです。まさに、日本の原風景です。その景色を、原子力発電事故は一瞬にしてゴーストタウン化させてしまったのです。私たちは、狭い国土に共存する民として、責任と義務の両面を自覚し、原子力発電所の未来への方向性について、真剣に向き合い、考える時であると痛感しました。

折しも19日、静岡県議会が開会され、県知事は署名された16万5千人県民の気持ちを尊重し、賛成意見を付して「浜岡原発再稼働の是非を問う住民投票条例案」が提出されました。私たち県民一人ひとりが、自らの意志により判断するときであると思います。

8年前に建てられた、原風景をバックした立派な川内小学校だが、帰村宣言された今も、従来の200人の児童のうち16名しか戻っていないのが現実です。

2012年9月20日(木)

密着取材の結果が放映

川内村の第3回いのちの森づくり植樹祭は、原発事故によって村が存亡の危機にあるにもかかわらず、村長を筆頭に村民たちが、「川内村は森林が命である」との思いから、夢と希望を持って行われてます。

わが時ノ寿の森クラブは、3年前に、



川内村の皆さんの森への思いに感動させられ、昨年のもめ事故にもめげず、継続されている植樹祭をととても大切に思っています。そんな思いから、今回は従来よりも参加者が増え、クラブ員6名が参加しました。

このような「いのち」をキーワードにした森づくりに、静岡第一テレビ局が大変関心を持ってくださり、なんと取材スタッフが、私たち6名に同行され、密着取材をしてくださいました。もちろん初めての経験ですが、緊張や責任を感じるとともに、森林再生という大きな目標の為には大変ありがたいことだと、感謝をしています。一方、取材先でもある川内村も、植樹祭のテレビ取材を快く受け入れてくれました。そのような取材の結果が、今晚午後6時半ころから、静岡第一テレビ番組の中で放映されました。約放映時間は、5分くらいでしたが、テレビで5分間も放映してもらえるなんてすごいことだと思います。わがクラブの理念や活動紹介も映像の中に含まれ、もめ事故による放射能汚染に負けてなるものかと、村を守る村民のみなさんの元気な姿が、とても素晴らしく表現されていました。

静岡第一テレビの〇さんほか3名のスタッフのみなさん、遠方の取材お疲れさまでした。今後とも、森づくりの重要性を社会に発信していくため、ご支援をよろしくお願い致します。

2012年9月23日(日)

川内村植樹祭参加者の感想

先週17日日曜日に行われた、福島県川内村の第3回いのちの森づくり植樹祭には、わがクラブから6名が参加しました。もめ事故による過酷な影響を受けながらも、懸命にふるさとを未来に残していこうと、森づくりに取り組む川内村のみなさんには、多くのことを気付かせていただきました。



参加された皆さんそれぞれに感じられたことがあると思いますが、佐藤郁子さんから感想文が寄せられましたので、ご本人の了解を得てご紹介いたします。

「川内小学校の植樹祭に参加して」

阿武隈高地の中程にある川内村。村も学校も緑に囲まれているのに何故植樹かなという気持ちは正直ありました。しかし、この美しい自然に恵まれた村に帰りたくても帰れない人々が、たくさんいることを眼に焼きつけるという大きな意味があることが解りました。

村に帰ってこの行事に参加してくれている人々の、心づくしのおもてなしに出会いました。人と人との出会い、心のふれあいが困難な環境の中から「よしがんばってゆくか」

というエネルギーを生み、お互いに受け渡し合ってゆくのだと強く感じました。

10月27・28日の掛川市の植樹祭では、川内村から来てくれる人たちに掛川の皆の、時ノ寿の皆の熱い思いを、何としても持って帰ってもらえるように取り組んでゆきたいと思いました。

2012年9月26日(水)

日本原風景

先週までの厳しい残暑がウソのようで、日本の秋を感じさせてくれる今日この頃の陽気です。この陽気に誘われて、田んぼの畔や川の堤防にも彼岸花が顔を出しています。これも、日本の原風景ですね。

今日の昼のNHKラジオ番組で福島県川内村が生放送で紹介されていました。10日前に植樹祭で川内村を訪れて以降今日までの間に、新聞紙上でも「いとおしき川内」と大きく紹介されていましたが、どんなに文明が進んでも情緒豊かな日本の原風景は未来に残していきたいですね。そんな原風景のモデルが、川内村にはここかしこに残っています。原発事故にも負けずに、その原風景をこよなく愛して、ふるさとを守る川内村の人々を心から応援して行きたいと、つるべ落としの夕陽を見ながらあらためて思いました。



2012年9月29日(土)

病院大植樹祭が一ヶ月後に迫る

植樹本数 22500 本、参加者数 3000 人の大植樹祭が静岡県掛川市で、10月27日土曜日に開催される。植樹する場所は、来春開設される二つの自治体病院統合による新病院「中東遠総合医療センター」建設地である。勤務医不足は全国的な問題だが、この地でも数年前から同様の問題が深刻化して

いる。来春開設する新病院は、病院を統合してこのような問題を抑制しようというものである。

そして、今回の大植樹祭は、市民にとっても、医師をはじめとする医療従事者にとっても「病院の魅力」をあらゆる視点から高めるための環境づくりの一つであると思う。



なぜなら、命を守る病院であればこそ、生命の源泉と言われる森林に囲まれていてほしいと願うのは、森づくりに精を出す者だけではないに違いない。

このホームページ上でも、10月27日植樹祭の参加募集チラシをアップしたので、ぜひ皆さんご覧いただき参加お申し込みください。

2012年10月4日(木)

好きこそ物の上手なれ

今晚のスポーツニュースで、米大リーグでヤンキーズが地区優勝したという報道がされていた。そこには、日本人選手二人の見事な活躍があり、優勝に大きく貢献したと絶賛していた。その二人とは、シーズン途中で移籍したイチロー選手、そして38歳という黒田投手である。いずれの選手も、ここまで活躍されてきた原動力は、力尽きるまで野球選手として「走り続ける」という信念ではないかと思う。そして、二人の年齢や今年の事情を考慮すると、この活躍は、まさに走り続けてくるための体力と精神力を常に磨き、鍛えて続けてきたことを証明している。日本人として誇りに思う。



政治家においても、国民の先頭に立って走り続けるために、常に真摯な姿勢で取り組み、努力している人は多いと思うが、その足を引っ張り合うような了見の狭い事象が目立つのには残念である。世界の中で、正々堂々と競争する日本チームの選手であることを、政治家の皆さんにも自覚してほしいものである。

イチロー選手の高校時代の恩師の言葉が印象的だ。「移籍後のイチロー選手の活躍を見ていると、高校時代のときに戻ったように見えます。最近のイチロー選手は、高校時代のときのように野球を楽しんでいる。」と……。人間、何事も、好きであることが基本であると、あらためて実感した。私の森林再生活動は、どう見えるだろう？

2012年10月7日(日)

3000人を動かすとは

囃子や太鼓の音が響く三連休の中日ですが、3000人の参加者を迎える大植樹祭三週間後に控え、祭りに浮かれています。今日は、宮脇先生の森づくりを手弁当で支援されているまじえる会のお二人が、



3000 人規模の植樹祭を 7 月に経験されたノーハウを、掛川の植樹祭に生かしてもらえればと、わざわざ神奈川県から現場を見に来て下さいました。本当にありがとうございました。

3000 人の参加者をたった 3 時間くらいの短時間の中で、開会式に集め、植樹会場 8000 m²に移動させ、22500 本の苗木を植えてもらうことが、どれほど大変なことであるかを痛感してしまいました。3000 人の人を移動するということは、1 秒間隔で次から次にスタートさせても、最後尾の人が動き出すのは 50 分後であるということなのです。開会式会場に一度集まったら、たとえ少し前や横に移動してほしいと思っても、動かすことは困難です。もし、そんなことをしたら事故が起きてしまいます。開会式の集まり方も、移動の仕方も、さらには植樹する位置の区割りの仕方も、すべてにおいて緻密な計画を立て、その計画に基づいて何度かのシミュレーションを重ねることが不可欠です。そして、当日のスタッフは、一人でも多くの者が現場を知り、その計画を頭に入れておくことが重要であると実感しました。

まじえる会のお二方には、心から感謝申し上げます。今日のアドバイスを肝に銘じながら、スタッフ一同で計画を練り上げてまいります。当日も、どうぞよろしくお願いいたします。

写真は、8000 m²の植樹地を南西から見たものです。

2012 年 10 月 12 日 (金)

ビジョンと努力

昨今、日本の内外で起きている事象は、国民を腐心させることばかりでしたが、山中伸弥教授のノーベル医学生理学賞受賞は、国民に大きな勇気と元気を与えてくれました。人工多能性幹細胞（i p s 細胞）ということばが、凡人ではさっぱり理解できませんでしたが、山中さんの受賞に伴い、多くのメディアが i p s 細胞のことを分



かりやすい切り口から解説してくれて、この発明が凄いことだと私のような者にも分かりました。子どもの頃に、トカゲの切れたしっぽが再生されてくることも、また小さな卵が目や口や足やいろいろな臓器にもなっていてひよ子が生まれて来ることも、不思議ですごいと思ったことを思い出しました。

医学者として、難病の人を救うことを大きな目標に掲げ、研究の道を選択されて、50 歳と言う若さでノーベル賞を受賞された山中伸弥教授ですが、科学者を目指す高校生たちを前に語っていた言葉は「しっかりとしたビジョンを持つ事が大切です。そして、失敗や挫折をいっぱいすることが大切です。」でした。また、山中教授を知っているみな

さんの「有言実行」「誠実で謙虚で、それでいて親しみやすい」など多くの評も、今回の山中教授のノーベル賞受賞が、多くの日本国民に勇気と元気を、そして夢と希望を与えることになったと思いました。

「ビジョンと努力」、何事にも通じる目的を達成する最も基本であると実感した一週間でした。森林再生を持続可能な社会運動につなげるために、いよいよ2週間後に迫った大植樹祭ですが、成功させなければいけません。

2012年10月13日(土)

徳川二人展で芸術の秋を

暑さ寒さも彼岸までと言うのに、日中は残暑が続く今日この頃ですが、朝夕の顔を撫でる冷気と草の葉に輝く露には秋の深まりを感じ、心が和らぎます。秋本番を迎えて、掛川市内でも芸術を楽しむ催しがいくつか企画されていますが、今日から21日日曜日まで「徳川浩・小牧二人展」が市内の城西ギャラリーで開催されています。



ご存知かもしれませんが、徳川浩・小牧ご夫妻は、わがNPO法人の会員です。陶芸のまち多治見から心機一転、掛川の地に作陶拠点を移され、黄瀬戸焼の奥を追求するとともに、地域資源の森林を燃料に生かした新しい薪窯も築造し、従来には無かった新作にも挑戦しています。妻の小牧さんは、まったく趣を異にした現代アートの陶芸作品を手がけており、その作品が醸す柔らい美は、世知辛い現代に生きる人の心を癒してくれます。

そんな二人ですが、掛川に来ての3周年を機会に「二人展」が企画されました。気さくで人柄も穏やかなお二人ですから、地域の人々に愛される陶芸作家になってもらいたいと思います。

私も、初日のきょう、立ち寄って来ましたが、二人の素敵なお作品が並び、陶芸の分からない私でも心が膨らんだ感じがいたしました。みなさんも、ぜひお気軽にギャラリーを覗いてやってください。

2012年10月15日(月)

子どもが学ぶ

子どもたちに地域社会から産業や経済や、また道徳的なことも学んでもらいたいとの目的で、もう随分前から総合的学習の時間という授業が取り入れられています。



また、夏休み等長期休業のときには、家庭の協力も願いながら、社会や経済的なことから生物や科学的なことにまで興味を広げてもらいと希望を込めて、「夏休み一人一研究」などと言った課題も昔からありましたが、今も続いているようです。子どもが大人になるために大切な事は、いっぱいあると思います。多感な時に、年齢に応じてその時々々に体験し、そこから感じる多くの事柄そのものが、これからの人生の基本になることではないかと思います。

今日は、わがクラブ会員の児童が夏休みに炭焼き体験から学んだことをまとめた発表が、表彰されたということを紹介します。この子は小学校3年生の男児ですが、もう時ノ寿の森と出会って3年以上の月日が経つでしょう。両親がクラブの趣旨に賛同してくれていて、雨の日にも寒い冬の時期も通じて、活動と一緒に参加してくれています。男児の下には、二人の妹がいますが、この子らを見ているとまさに時ノ寿の森で大きくなったような気がして、孫のように可愛く思っていました。そんな子が、炭焼きを見て来て、手で触れ、どういう思いを持ってくれていたのかが、成果品を見させてもらってよくわかり、大変嬉しく思いました。

環境学習という固い言葉がありますが、こうしたことを通じて子どもたちや大人も、地域の資源である自然の現状を知ってもらったり、また自然が現代社会にも大切であるということを感じてもらうことが、大事であると思います。

掛川市立西山口小学校3年平野巧くん、夏休みの炭焼き研究が優秀賞になり、おめでとうございます。これからも、時ノ寿の森で多くのことに気付き、興味を持って行って下さい。

2012年10月16日(火)

大仕事に大切なこと

いよいよ3000人の参加者を集め、22500本の植樹祭が10日後に迫りました。今夜も、役員が集まり植樹のエリア分け、移動の仕方など植樹祭の運営方法についてあれやこれやと議論を重ねました。植樹祭も、すでに5回目にもなると、わが会員たちも一通りの経験に立った自分なりの植樹ノーハウがあります。今夜の役員会でも、みなさんそれぞれに考え方があり、意見も食い違う場面もありました。しかし、こうしたことを通じながら初めて仲間意識が築かれていくのだと思いました。



NPO法人として会員の総意により、この植樹祭を成功させなければいけません、

そのためにはまずは、会員相互が融和のもとに創意工夫をしあうということが大事です。

私も、ついつい役員一同に対して、わが意見を押し通すきらいがありことを痛感しています。太平洋戦争時代に山本五十六司令官が残したという言葉が思い出されます。「やって見せ、言ってみせて、ほめてやらねば他人は動かし。」……。謙虚、謙虚、謙虚その気持ちを忘れないように……。

2012 年 10 月 19 日(金)

心に森をもつ

先日、朝日天声人語元担当者であった辰濃和男さんから、心が洗われるような素敵な文章、そして私の森林再生への思いをより強くさせてくれる文章が綴られた雑誌を送ってくれました。辰濃さんの文章は、いつ読んでも心に心地よく響きます。今回もその文章は、人間のエゴイズムばかりが目につき気が滅入っていた今日この頃でしたが、私の心身を元気してくれました。私の森林再生の原点を教えてくださいましたのも、辰濃和男さんでした。そして今回、私の心を動かしてくれたのは、「心に森をもつ」という言葉でした。以下エッセイ中の文章を抜粋します。



私は、知床のさまざまな森に出あい、木々の高い梢にとまるオオワイヤオジロワシの姿を見、海を神秘の色に染める夕日を見、水楢の巨木に圧倒されているうちに、「心に森をもちたい」という言葉を胸中で繰り返していた。ここでは、知床の森の特性として、①雑多性。②循環性。③土着性。④曖昧性。⑤静謐性。の五原則をあげたい。知床の森の五原則は、多くの場合、日本の森の五原則であり、それは同時に、私たちが「よりよく生きるための原則」だといってもいい。

・・・中略・・・ 「心に森をもつ」ということは、森の五つの特性を心に抱くことだ。・・・中略・・・ どうしても付け加えておきたい。五つの特性を超えて、大切なのは「森への畏敬の念を失わないこと」であり、森の風のそよぎ、沢の流れに「大いなるものの営みを感じること」ではないだろうか。

辰濃和男さんは、日本の自然保護運動の歴史に残る「知床 100 平方メートル運動」の芽生えをいち早く感じ、それを強く支持され、社会に発信された立役者であります。そのような辰濃和男さんに、いつも見ていただいている私の森林再生運動は幸せです。今回も私に贈って下さった「心に森をもつ」という言葉に、感激するとともに大いなる力をいただきました。

2012 年 10 月 24 日 (水)

22500 本の苗木が搬入

いよいよ時ノ寿の森クラブにとっては、前代未聞の大植樹祭が始まります。今日から、時ノ寿の森クラブは総動員で植樹祭の準備に取りかかっています。苗木 22500 本と言っても、どれほどの量なのか経験者でなければ



イメージできないでしょうが、すごいものです。80000 m²の病院建設地の中で約 1 割の面積の 7500 m²にいのちの森を造るのです。この森が育った未来の病院を想像するだけで、心が明るくなってきます。このような素晴らしい環境に囲まれた病院で、最新医療が施されたら、困難な病気も治ってしまうに違いないと、確信してしまいます。こんな機械は二度とないと思います。ぜひ、多くの市民の皆様にご参加を頂きたいと思います。

今日は、苗木 22500 本が関東方面や県内西部地域から、早朝より現地に搬入されてきました。クラブ員 23 名が、チームワーク良く、人海戦術により苗木を植樹地内に運び込むことができました。昨日の雨もあがり、今日は冬のように冷え込む中での作業、みなさんご苦労様でした。

2012 年 10 月 26 日 (金)

苗木 22500 本スタンバイ

一昨日から 3 日間、27 種類・22500 本の広葉樹の苗木をひたすら植樹地約 7500 m²の 52 エリアに均等に分配し、1 エリア平均 430 本をまじえまじえにする作業は、間伐などの山仕事ボランティアで訓練されたわがクラブ員たちにも相当応えていた。苗木の本数が半端でなく、過去



未経験の膨大な作業量は先が見えなくて、ストレスになっていた。そして、各自のポリシーで参加しているボランティアですから、指示命令が多すぎれば面白くないし、その一方で自主性に任せられても膨大過ぎて途方に暮れるし、本当に大変な作業をクラブ員みなさん、そしてご協力してくれた御家族や御友人のみなさん御苦労様でした。

明日と言う日は必ず来ますが、今の時ノ寿の森クラブにとっては、22500 本の苗木が均等に配置されない限り、今日という日は終わりがありませんでした。そんな状況の中で、日没直前に完了できたことは、素晴らしいことです。3 日間の過程では、いろ

いろいろな気持ちが交錯したでしょうが、みんなの力が結集したからこそ、明日が迎えられますので、NPO法人時ノ寿の森クラブの諸君、この経験と実績を大いに誇りましょう。そして、明日は、3000人の参加者と一緒に世紀の大植樹祭を、大いに楽しみましょう。

2012 年 10 月 29 日(月)

未来に向け離陸した協働の森林再生

22500 本の大植樹祭、世界から講師を招く国際シンポジウム、夢のような事業の実現に向けて準備は昨年 6 月から始まりました。掛川市で開催する意味・理念、開催する敵地選定、開催費用、準備から当日までの運営スタッフなどなど、途方もない



計画・作業でしたが、その大事業が計画通りできたと思います。その原動力は、市民力・企業力・行政力の三発のエンジンが、それぞれの能力を発揮して一つの駆動力になり、「いのちを守る森づくり」という未来に向かう大きな機体を、離陸させたのだと思います。その大きな機体には、ほぼ満席に近いお客様が搭乗して下さいました。

森林再生は、未来の子供たちの「いのち」を守るために、現代に生きる私たちがなくてはならない大切な使命だと思います。しかし、その作業は限りなく続いていかなければなりませんので、多くの人々の多様な形での参加が必要です。今回静岡県掛川市で開催された二つの大事業「22500 本植樹祭と国際シンポジウム」は、まさに市民・企業・行政の三者が協働したからこそ出来た森林再生事業であったと思います。

私たち時ノ寿の森クラブは、人里離れた源流部の山々で、地道な森林再生活動을続けながら、その三者共同による森林再生活動を訴えてきましたが、今回の大事業の成功は、そのレールを敷くための基盤が造られたと確信します。

しかし、これから、森林再生という限りなく遠い夢の目的地に向かって、いくつかのコースを通るレールを敷いて行かなければなりません。私たち時ノ寿の森クラブは、その先頭に立って行かなければなりません。今まで培ってきたチームワークと、かつ個々人の夢や希望をさらに大きく膨らめながら、未来に向かうレールを敷いて参りたいと思います。

2012 年 10 月 31 日 (水)

市民みんなの手で育てよう新病院「いのちの森」

掛川市と袋井市にあるそれぞれの自治体病院が統合し、来年 5 月 1 日に掛川市内に「中東遠総合医療センター」という新たなベッド数 500 床の基幹病院としてオープンします。その建設地において、両市の市民 3000 人が参加して植樹祭が開催されたのですが、



病院にいのちを育む森が市民の手で造られるとは、大変に素晴らしいことで、全国的にもこのような環境にある病院は珍しいのではないかと思います。

いつも健康な心身でありたいとは、老若男女を問わず誰にも共通の願いですが、長い年月のうちには心身健康のバランスを崩し、病院を訪れることは避けられません。そのようなときに、自分自身の手で植えられた木による豊かな森が病院に隣接していたら、きっと医師に診てもらう以前に、その人の気持ちは病気に対抗する大きな力が体内から湧き上がってくるに違いないと思います。

今回参加された市民は 3000 人います。そして、植えられた木は 22500 本あります。これらが、期待通りの豊かな森に育っていくには、しばらくの間は、市民の手で苗木を可愛がってやる必要があります。植樹に参加した人はもちろんですが、都合で参加できなかった市民も、これから 3 年間に必要な苗木の周囲の草刈りなどには、ぜひとも参加いただきたいと思います。